

平成30年度 埼玉県教育委員会 文部科学省委託・皆野町教育委員会 研究委嘱

平成30年度 皆野町立国神小学校研究紀要

研究テーマ

教育活動全体における外国語科指導法の研究

～自分の考えや思いをもち、伝え合い、理解できる喜びを味わえる授業をめざして～

本校は、埼玉県教育委員会から文部科学省委託・外部専門機関と連携した英語指導力向上事業及び皆野町教育委員会から小学校外国語・外国語活動の研究委嘱を受け、研究テーマ「教育活動全体における外国語科指導法の研究」のもと、副題として「自分の考えや思いをもち、伝え合い、理解できる喜びを味わえる授業をめざして」の研究に取り組んでまいりました。

特に、担任主導で外国語活動・外国語の授業を展開しながら、自分の考えや思いを伝え合う活動の設定や、必然性のある場面設定、児童自身の言葉で振り返る活動の3点を重視した授業実践を蓄積して参りました。日々、「チーム国神」として全職員で、子供たちができた喜びを味わえる授業をめざし、一人一公開授業を通して、研究を深めてきました。

研究途上ではありますが、各授業では子供と教師・子供同士での伝え合いができる姿がみられています。また、担任主導での外国語の授業が苦手と思う意識が薄らぎ、クラスルームイングリッシュを積極的に活用する意識が高まり、Small Talkを取り入れ、手応えを感じているところです。

結びに本研究を進めるにあたり、ご指導賜りました皆様に御礼を申し上げ、挨拶といたします。

皆野町立国神小学校長 萩原 敦



伝え合う喜びを味わえる活動の充実をめざして

皆野町立国神小学校

1 研究主題

(1) 研究主題

教育活動全体における外国語科指導法の研究

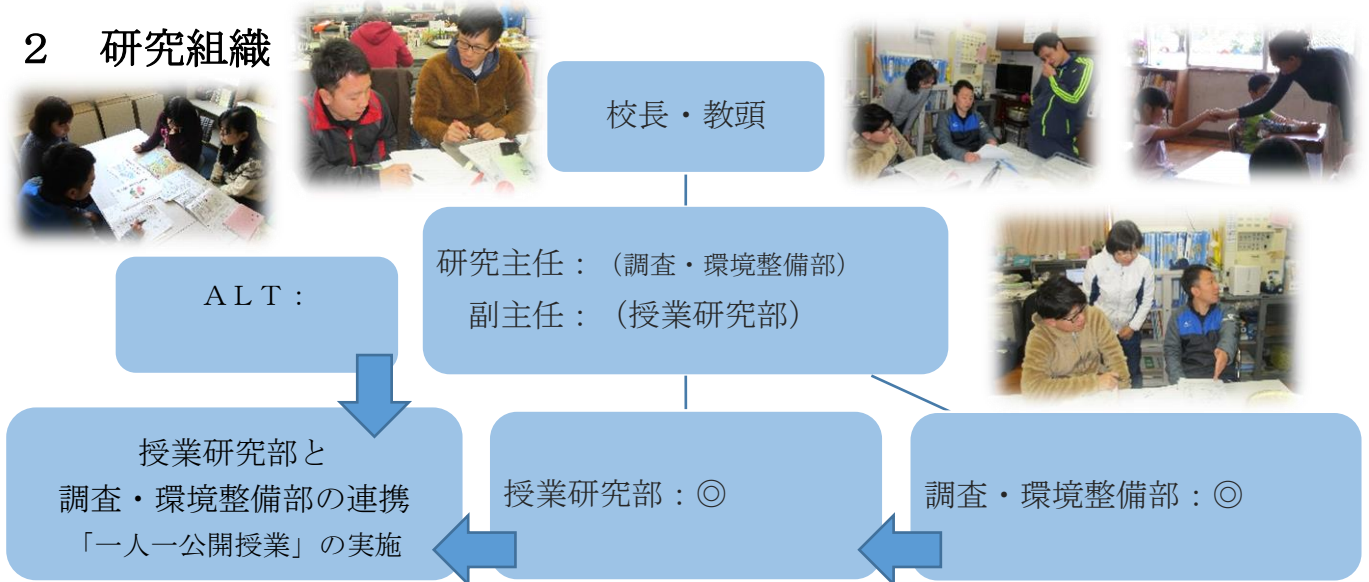
～自分の考えや思いをもち、伝え合い、理解できる喜びを味わえる授業をめざして～

(2) 研究主題の設定について

昨年度、本校は児童も教師も外国語活動に苦手意識をもっているという実態を踏まえ「児童も教師も楽しめる授業づくりをめざして」の研究に取り組んだ。一人一授業を公開し、担任主導の授業を推進することにより、授業参観で保護者にも外国語活動の授業を参観してもらうようにまでになった。また、学校生活の中で児童が英語を使うようになり、家庭での学習で、英語に取り組む児童や、学童で英語を使ってコミュニケーションをとる児童が増えてきた。

今年度は、昨年度の研究の課題として捉えた、学習内容の充実にとともなう英語の学習に難しさを感じる児童の増加、という実態を踏まえ「授業の楽しさ」の質を「ゲームの楽しさ」から「伝えられる喜び、理解できる喜びを味わえる楽しさ」へと変容させ、また、担任主導の授業の定着による、授業に生かせる様々な活動の実践的な研修を充実させることにより「児童が自分の考えや思いをもち、伝え合い、理解できる喜びを味わえる授業」づくりができると捉えた。

2 研究組織



3 研究の仮説

(1) 教科等横断的な視点から外国語活動や他教科等において一単位時間の中に

- ① 児童が自分の思いや考えを伝え合う活動の設定
- ② 児童が自分の思いや考えを伝え合う必然性のある場面の設定
- ③ 児童が自分の言葉で授業を振り返る活動の設定

を意識して位置づけた授業づくりに取り組めば、児童や教師が『自分の考えや思いをもちそれらを主体的に伝えられる喜び、理解できる喜びを味わえる授業』の中で学びを深めていくことができるであろう。

(2) 全教師が外国語科・外国語活動の授業を実践し、研修によって深め合うことで授業スキルの向上を図り、自信をもって楽しく授業に取り組めるであろう。

4 めざす児童像

自分の考えや思いをもち、それらを主体的に伝えられる喜び
理解できる喜びを味わい学びを深められる児童

5 研究内容・各研究部の取組

(1) 授業研究部

- ①全学年の指導案検証
→昨年度作成した年間指導計画と指導案を生かした公開授業実施と検証
- ②一単位時間の流れ（スタイルづくり）
→全教師が安心して質の高い授業を実施できるようになることをめざして
- ③指導と一体化した評価
→児童の振り返り活動とリンクさせた評価と教科としての評価方法・内容の検討・工夫
CAN-DO リストの作成と活用の検討
- ④中学校と連携した公開授業と研究協議会・合同研修会
→小中連携を図った外国語科・外国語活動をめざして
- ⑤担任主導の一人一公開授業の実施
→全教師の英語指導のスキルアップをめざして
教科横断的な指導力の向上をめざして
- ⑥外国語通信の発行・職員研修
→英語指導力養成講座、英語教育推進リーダー中央研修での研修内容を生かした、教師の指導力向上をめざした通信

(2) 調査・環境整備部

- ①実態把握のためのアンケートの実施
→「ゲームが楽しい」から「互いの思いや考えを伝え合うことが楽しい。わかることが楽しい」への意識のさらなる変容をめざして
実態に応じた研究主題の設定と変容の確認
- ②英会話ミニ研修会の実施
→教師の英語への苦手意識をなくし、自らが英語でコミュニケーションをとることを楽しめるように、外国語科の指導内容の共有化をめざして
- ③ひとくち英会話の実施
→教師と児童が英語で互いにコミュニケーションを楽しめる場の設定
- ④教材・資料作成
→事前準備の時間短縮と誰もが楽しく授業に取り組めることをめざして
- ⑤外国人との交流
→児童も教師も生きた英語でのコミュニケーションを楽しめる場の設定



6 英語教育推進リーダーによる示範授業と職員研修

3年生『Let's Try1 I like blue. すきなものをつたえよう』平成30年5月21日(月) 示範授業

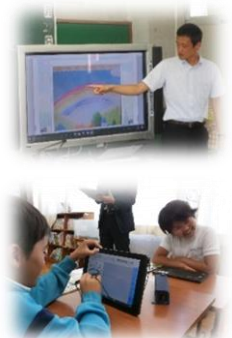
- 導入での挨拶後の活動内容の幅を広げたい。
→職員研修の充実。(調査・環境整備部)
- 板書・掲示の工夫。
→授業スタイルの確立。(授業研究部) 掲示物の工夫・作成。(調査・環境整備部)
- 振り返り活動の方法・内容の検討。(授業研究部)

3年生『This is for you. カードをおくろう』平成30年10月22日(月) 示範授業

- タブレットの効果的な活用。
→児童の意欲の向上、時間短縮・効率アップ。
→タブレットの活用方法についての職員研修の計画・実施。

英語指導力養成講座・英語教育推進リーダー中央研修 伝達研修 平成30年10月22日(月)

- アルファベットの書き順
- ウォーミングアップとスモールトークの違いと活用方法
- インフォメーションギャップの活用方法
- 英語の絵本の読み聞かせ
- Can-Do リストの活用



7 外部専門機関と連携した英語指導力向上をめざした取組

指導者：東京家政大学 太田 洋 教授

公開授業を通して①

5年生『What do you like ?』 福井教諭 (平成30年7月10日 (火))

授業について

- 「語りかけようとする」「子供の言ったことを受け入れる」姿勢が大切。語りかけ方が上手＝英語の授業が上手な教師。
- クラスの実態に合わせた話題や場面の設定をすることで児童の英語に取り組む意欲が向上する。担任でなければできないことである。日常での児童とのコミュニケーションを大切にする。
- 英語は繰り返し使うことで覚えるのでウォーミングアップでの1対1の教師と児童との会話は身につく。

授業者の英語力アップをめざして ALT との連携

- ① リピートする。「Oh,」「Ah,」のつなぎ言葉も大切。リピートするためには相手の言うことをしっかりと聞きとり、自分のことを語る。ALT のサポートが大切。
- ② 「learn by doing」やりながら学ぶ。ALT にわからない表現は聞く。担任の意図を察して ALT が担任の代わりに話す。担任はそれを聞いて覚える。ALT のサポートとフォローが大切。
- ③ Outcome の出し方。間違いを否定せずにはまず受け止める。
「Correct feedback」: S 「I am tennis.」→T 「Oh, you like tennis.」
- ④ 自分を語る。担任が何をしたいか等、本当の思いを英語で語るようにする。その語り方を ALT に教えてもらいサポートしてもらうことで英語力が向上する。

課題

- 授業の楽しさの質の変容
→理解できた、話すことができた等、児童も教師も達成感を味わえる授業
→Can-Do リストの作成と活用
- 全教師の授業スキルの向上
→一人一授業の公開、授業参観等での保護者への公開
- 英語の授業の質の向上
→外国語科主任の指導・示範授業、中学校との連携
- 担任と ALT との連携 担任の英語力アップをめざして
→英語をどう使うのか、手段の明確化。どのような英語を使えばいいのかを支援するのが ALT の役割。



課題を生かした 公開授業②

4年生『Do you have a pen ?』 (平成30年11月20日 (火))

授業について

- 児童が理解できた、話すことができたという達成感を味わえる授業になっている。
→児童同士で話し合っている場面、ALT の通訳をしている場面、
互いの顔を見てコミュニケーションをとっている場面
→英語でのこの言い方は使えるかも、伝わるかもという思いを児童がもっている。
実際の文具を引き出しから取り出す児童がいた。
- 教師の授業スキルの向上
→ジェスチャー等視覚化の工夫、温かな雰囲気での Small talk、Classroom English、英語を使おうという意識が高かった。担任が英語を教えるメリットを最大限に発揮している。
→指導案の中に担任が活用できる Classroom English を明記。
- 担任と ALT との連携 担任の英語力アップをめざして
→ゲームの説明、発音確認、実際の児童の活動に ALT が参加するなど、役割分担がしっかりとされていた。



● 3つのポイントを大切にします。

- ① 目的→プレゼントを選ぶためにこの文法を活用する等
- ② 場面→買い物の場面
言いたい・聞きたい・伝えたい 3つの“たい”のある授業をめざす。
- ③ 相手→誰が使うのか
相手によって話す内容がそれぞれ変わる

● 3つの“たい”から out come へ。成果物。

→友達にプレゼントを実際にあげる。=英語でのこの言い方伝わるかも。

● 少人数のよさを生かす活動

- ① やりとり：担任→全体→個別→全体→ALT (teacher student interaction)
- ② モニター：様子を見る。
- ③ フィードバック：相手の言ったことを受け止める。気づきを与える。リキャスト。
*全体と個を行ったり来たりしながらしつこいくらい繰り返し慣れさせることを大切にする。



今年度の研究のまとめとしての公開授業③

5年生『She can run fast. He can jump high. できること』 (平成31年2月1日(金)) ○3つのポイントと“たい” (言いたい・聞きたい・伝えたい) を大切にした授業になった。

- ① 目的→ビデオレターを送ろう
 - ② 場面→学級で
 - ③ 相手→海外にいる友達に
- 3つの“たい”を児童の out come の活動へとつなげた授業になった。

- ① 自分の言いたいこと、伝えたいことを繰り返し言う (リピート)。
- ② 自分のフレーズをもつ。
- ③ 自分のことを表すときに実際に使える。

○少人数のよさを生かして『やりとり・モニター・フィードバック』の活動を設定・充実できた。

- ① 担任・ALTと児童→small talk。あいさつ、既出表現を活用して自分のことを話す。
- ② 児童と教師→デモンストレーション。教師の“Who am I?” クイズをする。
- ③ 担任とALT→インタビューのデモンストレーション。
- ④ 児童と児童→インタビュー。

*全体と個を行ったり来たりすることを意識し、繰り返し慣れさせることを意識した授業づくりができた。



講演 『授業づくりで大切なこと』

最終目標『言葉の習得を促す』をめざして

東京家政大学 人文科学部 太田 洋 教授

○3つのポイント“目的・場面・相手”を大切にすること。

- ① 長続きさせるためには3つの意識をしっかりと持つ。
- ② どれか1つは取り入れるようにする。

○児童の活動していることのねらいを明確にすること。

- ① 自分の言いたいこと、伝えたいことを繰り返し言う (リピート) ことで児童は自分を表現するフレーズをもつことができ、使えるようになる。
- ② 自分を表現するフレーズを増やしていく。

○言葉の習得を促すために教師が自分のことを語ること。

- ① 教師が自分のことを語り、“How about you?”と投げかける。
- ② 教師の語りたいことを『聞くこと』を大切にする。
- ③ ただのリスニングではない、“たい”を意識したインプットをたくさん提供することでアウトプットが可能になる。
- ④ インプットとアウトプットを繰り返すことが『言葉の習得』につながる。



Can-Do リストの活用から考察する

「児童の自分の考えや思いをもち、伝え合い、理解できる喜びを味わえる授業」

○授業の楽しさの質の変容をめざして

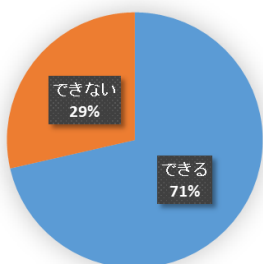
- ・理解できた、話すことができた等、児童も教師も達成感を味わえる授業を意識化し、実態を把握し、さらなる授業向上をめざすための作成・活用をめざした。

○作成のポイント

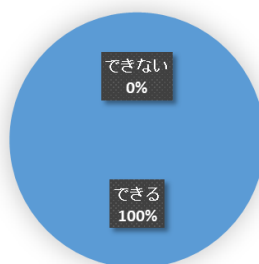
- ・各学年の学習の話題・題材の特有なものを最初に位置づけ、一般的なもの（概念的なもの）を終わりに位置づけることにより、学年の終わりには学習内容を一般化したもので達成状況が把握できる形式にしている。

4年生

学校で使うものについて質問できる

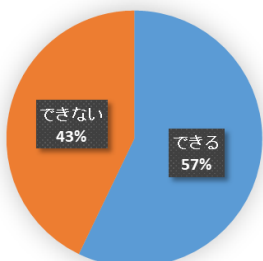


何が欲しいのか答えられる

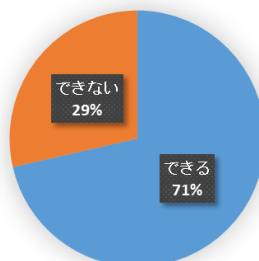


- 既習事項についてできるようになったと感じている児童が多い。
- 質問に答えられると感じている児童が多い。

何が欲しいのか質問できる



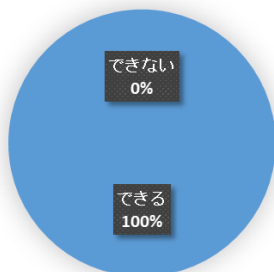
学校で使うものについて答えられる



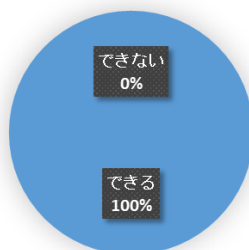
- 質問することは難しいと感じている児童が多い。
- *「質問→答える」の伝え合いの活動を意識して取り組んでいく。

5年生

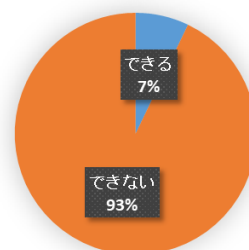
簡単な食事の注文ができる



教科やスポーツなど身近なことについて、自分の好き・嫌いを伝えることができる



できること、できないことについて考え、気持ちを含めて伝え合うことができる



○既習事項について全員の児童ができるようになったと感じている。

●「伝え合うことができる」と感じている児童が少ない。

*「伝え合う」活動を意識化させる Can-Do リスト項目を学校全体で系統的に取り入れていく。

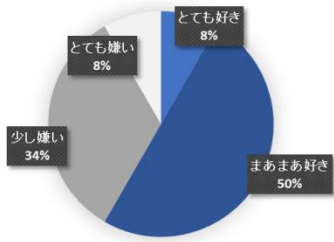
8 アンケート結果 (職員・児童アンケートから)

平成30年6月実施

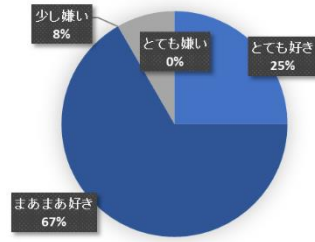
平成30年12月実施

職員

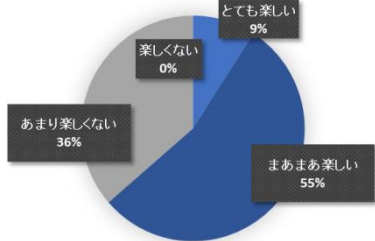
外国語活動の授業は好きですか



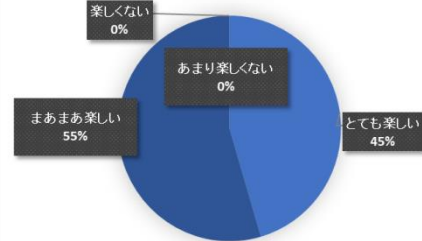
外国語活動の授業は好きですか



外国語活動の授業は楽しいですか

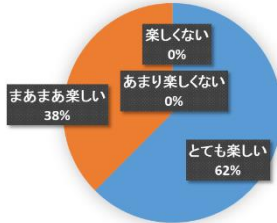


外国語活動の授業は楽しいですか

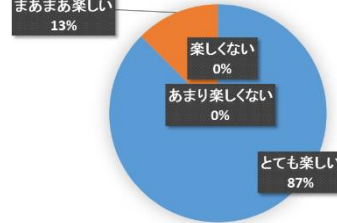


児童

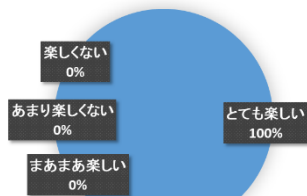
3学年 英語で先生や友達と話したりいろいろな活動をいっしょにすることは



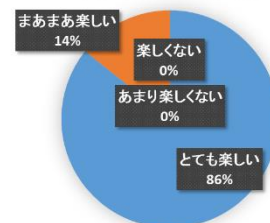
3学年 英語で先生や友達と話したりいろいろな活動をいっしょにすることは



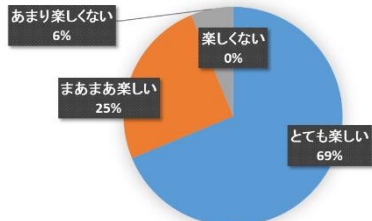
4学年 英語で先生や友達と話したりいろいろな活動をいっしょにすることは



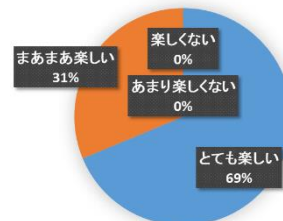
4学年 英語で先生や友達と話したりいろいろな活動をいっしょにすることは



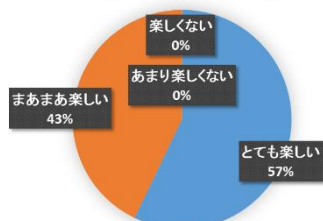
5学年 英語で先生や友達と話したりいろいろな活動をいっしょにすることは



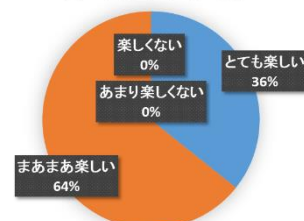
5学年 英語で先生や友達と話したりいろいろな活動をいっしょにすることは



6学年 英語で先生や友達と話したりいろいろな活動をいっしょにすることは



6学年 英語で先生や友達と話したりいろいろな活動をいっしょにすることは



9 研究の成果と課題（成果○課題●）

- 昨年度作成した年間指導計画と指導案を生かした公開授業実施と検証ができた。
- 一人一授業の公開の積み重ねにより、担任主導の授業を推進することができた。
- 教師も児童も『伝えられる喜び、理解できる喜びを味わう楽しい授業』をさらに意識化することができた。
- 学校生活の中で児童が英語を使うようになり、家庭での学習で英語に取り組む児童が増えた。
- 授業参観で外国語活動を保護者にも参観してもらうことができた。
- 指導計画・指導案の学年の系統性の整備を進め、一単位時間の授業のスタイルを作ることができ、全教師が安心して質の高い授業を実施することができるようになってきた。
- 最終目標である『言葉の習得を促す』ことをめざし、インプットからアウトプットへの活動をさらに充実させることができた。
- 授業に生かせる様々な実践的な研修を実施することができた。
- Can-Do リストを作成し、児童一人一人の意識の変容や伸びを見取る評価に生かすことができた。
- 学習内容の充実に伴う英語の学習に難しさを感じる児童の増加。
 - 特に書く活動に難しさを感じる児童の増加。
 - 児童が伝え合い、理解できる喜びを味わえる授業づくりのさらなる工夫。
 - 書く活動の位置づけと指導方法の工夫。
- 授業に生かせる様々な活動の実践的な研修の継続と積み重ね。
- 一人一人の意識の変容や伸びを見取る評価方法。
- Can-Do リストの内容項目のさらなる検討と効果的な活用方法の工夫。
- 担任の英語力アップをめざした ALT とのさらなる効果的な連携のあり方。

